

■後鳥羽天皇 82代天皇。武家からの権力奪回を試み、失敗して配流されたが、「新古今和歌集」を遺した。

ごとばてんのう

源氏一斉蜂起1180＝ 以仁王の決起直後、京都で、高倉天皇の第4皇子に生まれる。母は坊門信隆の娘殖子(七条院)。(藤原)高倉範季に引き取られ、範子が乳母となり、その妹兼子も身边にあつて、養育され、

後鳥羽天皇・1183＝ 3歳：氏が安徳天皇を伴って都落ちした後、高倉範季の機略で、_祖父後白河法皇の詔によって踐祚。

平氏滅亡・・・1185＝ 5歳： 踐祚の後も後白河法皇が院政を行ったが、

奥州藤原滅亡1189＝ 9歳：

源頼朝上洛・1190＝10歳：元服。九条兼実が娘任子を入内させ、まもなく、源通親も娘存子を入内させる。

鎌倉幕府始・1192＝12歳：_法皇の死去後は、関白九条兼実が実権を握る。源通親ら法皇の旧側近はこれと対立し、

・・・・・・1194＝14歳：この頃、九条家全盛のモニュメントたる「六百番歌合」。
東大寺再建完1195＝15歳：任子・存子が相次いで皇女・皇子を出産するが、坊門信清の娘坊門局と高倉範季の娘重子の方を寵愛、
建久7年政変 1196＝16歳：坊門局が皇子を出産。_通親は策謀によって兼実を失脚させ政権を握る。
・・・・・・1197＝17歳：重子も皇子(順徳天皇)を出産し、事実上の正妻となる。
・・・・・・1198＝18歳：*通親の外孫にあたる皇子為仁(土御門天皇)に譲位、上皇として院政を始め、最初の熊野詣、毎年のように、30回近く熊野詣、

源頼朝没・・・1199＝19歳：花見に出かけるなど、毎日のように洛中・洛外へ御幸し、通親に誘いなどで、和歌に導かれ、
梶原景時征討1200＝20歳：早くも、百首歌に挑戦するとともに、公卿・歌人らに詠進を命じ、
・・・・・・1201＝21歳：_古今集を生んだ勅撰事業の300年目の再現を図り、和歌所を置いて「新古今和歌集」の撰進を命じる。
・・・・・・1202＝22歳：院政開始後も通親が実権を持っていたが、_通親が死去して後は独裁となる。頂点たる「千五百番歌合」。
執権政治始・1203＝23歳：

_鴨長明と親しみ琵琶も習い名器を所望。上皇は貴族間の対立を克服し、すべての貴族が上皇を補佐する体制の確立を図り、通親に抑えられていた九条家一門などをも重用した。將軍源実朝との関係を密にし、上皇の主導の下に朝幕の融和を進め、生母の弟である坊門信清の娘を実朝の妻として鎌倉に下した。
新古今集・・・1205＝25歳：寵愛した更衣尾張局が皇子を出産した直後に死去し、嘆き悲しむ。*古今集から丁度300年目「新古今和歌集」が奏覧され、最初の政治的達成となるが、完全主義から、以後も自らの手によって選び直しを続ける。

モンゴル帝国・1206＝26歳：有心衆と無心衆を対抗させる狂連歌を催して堪能、以後、折に触れて開催し、側近人材も選別。
専修念仏禁止1207＝27歳：専修念仏を禁止し、源空・親鸞を、土佐・越後に配流する。
武者の世には帝王にも武芸のたしなみや軍力が必要だと考え、水練・相撲・狩猟などをたしなみ、刀剣を製作鑑定し、西面の武士を置いたりする。また、引越し魔で、譲位後11年で13回の移徙。
・・・・・・1210＝30歳：土御門天皇が譲位して、順徳天皇が即位すると、権威のため有職故実も重視するようになって、勉強会、
方丈記・・・1212＝32歳：「世俗浅深秘抄」に結実。この頃、歌論「御口伝」を著し、定家を批判するが、順徳天皇の信任で空振り、
北条朝権確立1213＝33歳：

_姻戚・和歌・蹴鞠を通じて実朝と親交し、実朝を介して幕府御家人の權益をを侵すようになって、執権北条氏と対立、両者の関係はしだいに悪化し、
実朝を年頭に、大規模な「院四十五番歌合」。

栄西没・・・1215＝35歳：
・・・・・・1216＝36歳：
・・・・・・1218＝38歳：_実朝を年初の権大納言から年末の右大臣まで異例の官位昇進をさせたが、
源実朝暗殺・1219＝39歳：*実朝が暗殺されると、驚愕と恐怖から、一気に心身が不調となるなか、ついに討幕を決意、
愚管抄・・・1220＝40歳：_定家の歌に憤って勅勅を加えるに至り、内裏造営など苛酷な政治で人心を失うも、
承久の乱・1221＝41歳：*慈円が西園寺公経を介して諫止するのも聞かず、執権北条義時追討の宣旨を発して挙兵、承久の乱となる、幕府軍の前に上皇方は完敗。出家の上、隠岐に流された。四季を通じて黒染の衣を纏い、孤独と望郷の「遠島御百首」の絶唱を詠むうち、

親鸞真宗始・1224＝44歳：_北条義時の死去、
北条政子没・1225＝45歳：_政子の死去が伝わると、批評的姿勢が復活し、
・・・・・・1230＝50歳：_さらに、九条道家が堀河天皇の意として、定家に新たな勅撰集編集を命じたことが伝わると、「新古今和歌集」の完成に向けた情熱に火がつき、

御成敗式目・1232＝52歳：
・・・・・・1233＝53歳：京の藤原家隆を通じて旧臣らによる「時代不同歌合」を開かせ、

金滅亡・・・1234＝54歳：
・・・・・・1235＝55歳：「隠岐本新古今集」の改訂作業を思い立ち、
・・・・・・1236＝56歳：続いて、「遠島歌合」と付随する「定家・家隆両卿撰歌合」を開かせ、自ら判を下して、執筆するなど、

・・・・・・1239＝59歳：_最後まで、和歌に執念を持ち続け、
_信仰の到達を示す「無常講式」を著した直後、没した。